

肺癌の治療のため当院に入院された患者さんの 診療情報を用いた医学系研究に対するご協力をお願い

研究責任者 所属 外科学（呼吸器） 職名 専任講師

氏名 朝倉 啓介

実務責任者 所属 外科学（呼吸器） 職名 専任講師

氏名 朝倉 啓介

連絡先電話番号 03-5363-3806

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院された患者さんの診療情報を用いた下記の医学系研究を、医学部倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2002 年 10 月 1 日より 2009 年 2 月 28 日までの間に、慶應義塾大学病院呼吸器外科にて I 期非小細胞肺癌の治療のため入院し、手術を受けられた方

2 研究課題名

承認番号 20190038

研究課題名 I 期非小細胞肺癌に対する経皮的針生検後の胸膜再発の検討

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部外科学（呼吸器）教室

共同研究機関

ソウル国立大学（主機関）

大阪大学

栃木県立がんセンター

横浜労災病院

サムスンメディカルセンター

研究責任者

Soon Ho Yoon

井上匡美

松隈治久

井坂哲哉

Kyungjong Lee

4 本研究の意義、目的、方法

肺癌を診断するための経皮的針生検の合併症のひとつとして胸膜播種が知られています。しかし、肺癌はその自然史の中でも胸膜播種を来たことがしばしばあり、経皮的針生検が本当に胸膜播種のリスクを高めるのかに関して定まった見解はありません。

当科では 2002 年 10 月から 2009 年 2 月の期間に I 期非小細胞肺癌に対する手術を受けられた患者さんの診療情報を用いて検討を行い、2012 年に「経皮的針生検は胸膜播種のリスクを高めない」という結論の論文を発表しました。本研究では、当院を含む日韓 6 施設からの論文発表された計 2456 例の患者さんのデータをソウル国立大学（韓国）に集めて解析し、「経皮的針生検が胸膜播種リスクを高めるのか」という疑問をより科学的信頼性が高い手法で検討いたします。

5 協力をお願いする内容

カルテから収集した診療情報（年齢、性別、腫瘍の場所、組織型、経皮的針生検施行の有無、術式、病期、腫瘍サイズ予後および再発形式）を、個人が特定できない形でソウル国立大学胸部心臓血管外科へ提供させていただきます。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2019 年 12 月 31 日

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名、患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と、匿名化した診療情報を結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また研究計画書に記載された所定の時点で完全に抹消し、破棄します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

氏名：朝倉啓介

所属：慶應義塾大学医学部外科学（呼吸器）

電話番号：03-5363-3806

対応可能時間：平日 9～17 時

以上